

経済・金融
フラッシュ英国GDP(2024年7-9月期)
ー前期比成長率は0.1%に大幅減速

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:7-9月期の成長率は前期比0.1%と大幅減速

11月15日、英国国家統計局(ONS)はGDPの一次速報値(first quarterly estimate)および月次GDPを公表し、結果は以下の通りとなった。

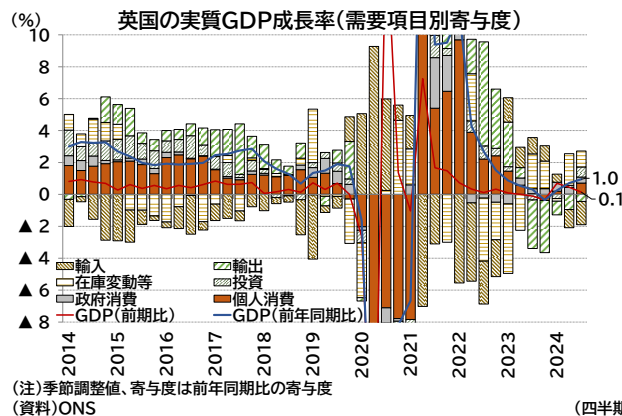
【2024年7-9月期実質GDP、季節調整値】

- ・前期比は0.1%、予想¹(0.2%)より下振れ、前期(0.5%)から低下した(図表1)
- ・前年同期比は1.0%、予想(1.0%)と一致、前期(0.7%)から上昇した

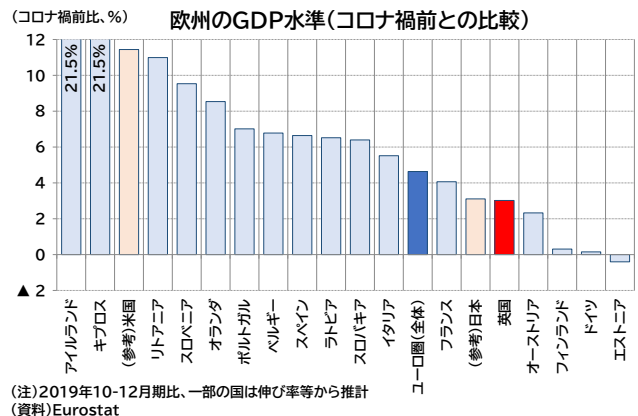
【月次実質GDP(7-9月)】

- ・前月比は7月▲0.0%、8月0.2%、9月▲0.1%となり、9月は予想(0.2%)より下振れた。

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:内需の核となる消費や投資はむしろ加速

英国の24年7-9月期の実質成長率は前期比0.1%(年率換算0.6%)となり、4-6月期(前期比0.5%、年率1.8%)から減速した。その結果、7-9月期の実質GDPの水準はコロナ禍前(19年10-12月)と比べて3.0%ほど高い水準まで回復した。ただし、ユーロ圏各国と比較すると相対的に回復は遅れている(図表2)。

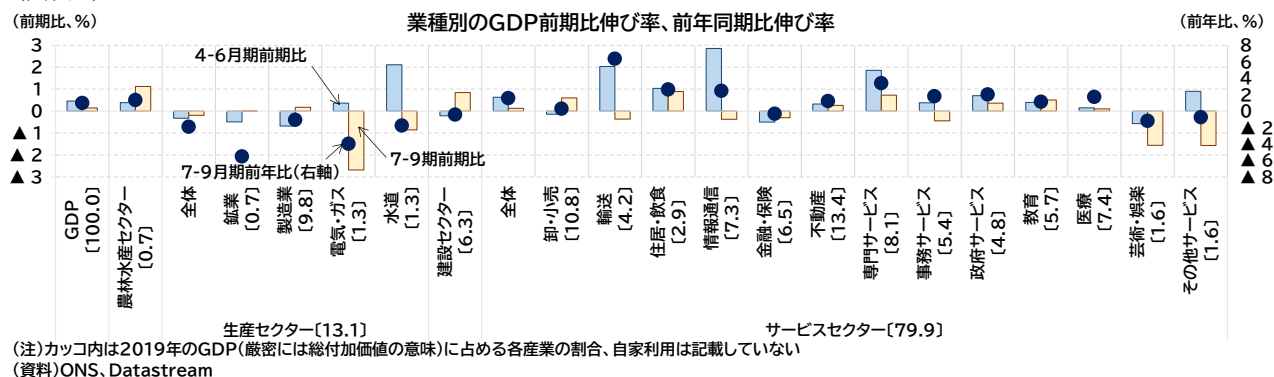
前期比成長率を需要項目別に確認すると、個人消費が前期比0.5%(前期0.1%)、政府消費が0.6%(前期1.1%)、投資が1.1%(前期0.6%)、輸出が▲0.2%(前期▲0.3%)、輸入が▲1.5%(前期6.3%)、在庫変動等の前期比寄与度は▲0.94%ポイント(前期2.25%ポイント)、

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想も同様。

純輸出は同0.46%ポイント（前期▲2.20%ポイント）だった。輸出の低迷（特に7-9月期はサービス輸出が前期比▲1.0%（前期1.8%）と減少）が成長率の伸び悩みに寄与しており、内需の核となる消費や投資の伸びはむしろ加速している。

コロナ禍前比で見ると個人消費が2.0%、政府消費が10.2%、投資が4.9%、輸出が▲7.1%、輸入が4.6%で、輸出の回復が相対的に遅れている。なお、10月末の年次改定（ブルーブック2024）でコロナ禍後の消費が全体的に上方修正（貯蓄率が下方修正）されたため、コロナ禍比の消費水準が改定前のマイナスからプラスに転じている。

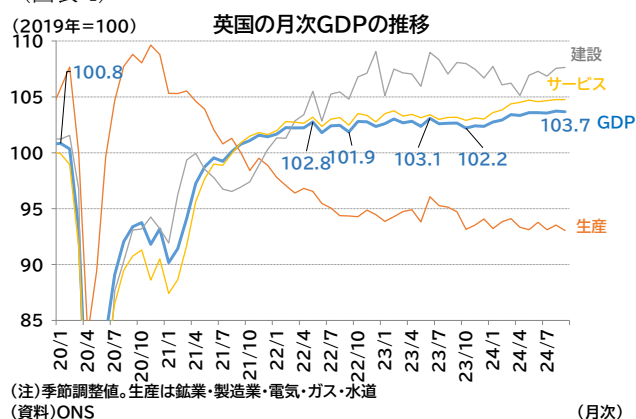
（図表 3）



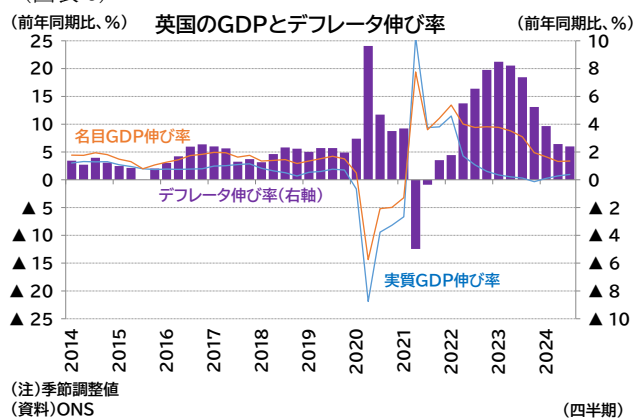
成長率を部門ごとに確認すると、農林水産部門が前期比1.1%、生産部門が同▲0.2%、建設部門が0.8%、サービス部門が同0.1%となった。生産部門は減少したが、サービス部門はGDP並みの成長率となり、農林水産部門と建設部門は好調だった（図表3）。より細かい産業分類では、居住・飲食（0.9%）や専門サービス（0.7%）、卸・小売（0.6%）が好調な一方、電気・ガス（▲2.7%）や芸術・娯楽（▲1.6%）、その他サービス（▲1.6%）、水道（▲0.9%）は不振だった。

単月の状況を月次GDPで確認すると7月が前月比▲0.0%、8月が同0.2%、9月が同▲0.1%となり一進一退の推移となっている（図表4）。

（図表 4）



（図表 5）



名目GDPは、7-9月期の前期比で0.8%（4-6月期は1.1%）、前年同期比で3.4%（前期3.3%）、デフレーターは前期比0.7%（前期0.6%）、前年同期比2.4%（前期2.6%）となった（図表5）。インフレ圧力の低下を受け、GDPデフレーターも緩慢ではあるが前年比伸び率の鈍化が続いている。

名目GDPを所得別に見ると、雇用者報酬が前期比0.8%（前期0.9%）、営業余剰は同0.3%（前期1.4%）となり、営業余剰の鈍化が目立った。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。